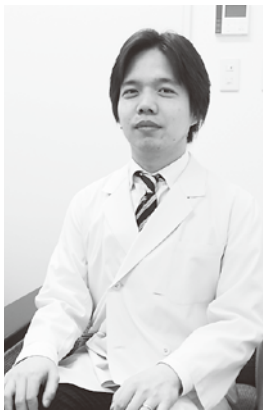
堀病院

4月6日に眼科オープン 担当の小林副院長に聞く

中四国唯一の耳鼻咽喉科の単科病院として知られる医療法人徹慈会　堀病院（福山市沖野上町三―四―一三、宇高毅理事長）に4月6日、新たに眼科がオープンする。副院長・眼科部長に就任したのは広島大学病院、ＪＡ尾道総合病院眼科部長などを歴任した小林賢医師だ。

小林副院長は福山市出身。故郷で新たな一歩を踏み出すに当たり、診療方針や意気込みを聞いた。

小林副院長



総合病院では全国的に眼科が縮小・撤退傾向にある。備後地域もまた例外ではない。「そんな中、郷里に総合病院に近いレベルの専門的な施設を開設する。幅広く対応し、地元に貢献できれば」と話す。

小林副院長(36)。広島大附属福山高―広島大医学部を卒業後、福山医療センター、ＪＡ尾道総合病院、広島大学病院で勤務してきた。「視力は命に直接かかわらないかもしれないが、生活に直結している。目の治療は生活改善につながる」と眼科を志望した理由を話す。

専門は網膜硝子体（しょうしたい）疾患だ。網膜はく離や糖尿病の進行に伴う網膜症など、目の内側の網膜に生じる病気の治療を主とする。

眼科は新築となった同院の二階に設置する。あらゆる症例に対応できるよう、大学病院で使うような最新の手術・検査機器を備えている。中でもＰＴＤレーザー（光線力学療法）、Ｆ10（共焦点走査型ダイオードレーザー検眼鏡）は備後地区初導入となる。

これらの機器により、これまで広島や倉敷まで行かなければ治療できなかったような症例にも対応が可能に。「以前から、地元のために何かできないかと考えていた。設備が充実し、歴史もある病院に勤務できることは光栄です」と小林副院長。

オープンを前に、スタッフと共に患者さんに対する動きなどを確認している。親しみやすく地域に密着した診療スタイルを目指す。「眼科は専門性が重要だが、診察、治療と総合的なサポートができるようにしたい」と抱負を語る。

診察時間は月―金曜が8時30分―12時と15―18時、土曜が8時30分―12時。

問　☎084・926・3387